

モノづくりを支える

町工場の技

★63★

N K E

NKEの看板製品の1つであるエアチャック。丸棒ハンドリングなどに

使われる「コレット型」と呼ばれる特殊品を手がけるのは、この道45年の

浅井良一さん(写真)だ。材料の丸棒を旋盤で外径、内径を削る。フライス盤でバネを仕込む穴を開け、ワイヤ放電加工機で穴の内径の精度を仕上げ、最後にバレル研磨やバリ取りで最終仕上げとなる。精度は100分の

1ミリのオーダーで「基幹製品だけに精度の不具合は致命傷」だ。

定時制高校に通いながら旋盤やフライス盤で工業用マシンや油圧機器の部品加工に明け暮れた。「加工条件を探り、期待通りの精度が実現した瞬間が快感」という。

若い同僚からは精度が出ないなどの相談が寄せられるが、「数をこなして経験を積むこと」「機械の性能に頼っては作り込めない」「作ってしまったからは品質は戻らない」「仕事終わりの保守など当たり前のことと当たり前にやる」と金言が返ってくる。

現在、誰もが浅井さんのように加工できるような技術伝承の準備を進めている。現場イノベーションの源となる。

▽社長 中村道一氏▽所在地 京都府長岡京市、075・931・0532▽売上高 約20億円(14年3月期)▽従業員 125人▽設立 69年(昭44)3月

(火曜日に掲載)

チャック精度 作り込み、に快感

